

1 教材名 「くわしくする言葉」

2 教材の目標

修飾・被修飾の関係や修飾語の役割と使い方を理解し、主語・述語・修飾語がそろった文を書くことができる。

3 教材について

(1) 教材の位置とねらい

子どもたちは、第3学年最初の作文単元で、「書きたいことを中心に詳しく書く」ということを学習した。これは、第3学年の作文学習の中核になるものである。子どもたちは「詳しくする」観点として「何を」「いつ」「どこで」「どんな」などに着目していくことを、ある程度身につけている。その後、文の構成要素としての主語と述語についても学習した。

そこで、本教材では、文を構成しているものとしての主語・述語・修飾語の関係を理解させることと、それぞれの修飾語が文のどの部分を詳しくしているのか、その係り受けを押さえることをねらいとしている。これによって、子どもたちは、「何を」「どんな」「どこで」などの観点を示す修飾語を付け加えることにより、さし示す内容の細部が次第に明らかになっていくことを学べる。さらに課題に従って修飾語の学習をすることにより、「いつ」「どのように」の観点も理解でき、今後の読解においても作文においても有効に力を発揮できることが予想される。

(2) 指導の基本的な立場

「修飾する」ということは、対象についてのイメージを「詳しくする」ことである。そこで、まず、それぞれの修飾語が、文のどの部分を詳しくしているのか、その係り受けをしっかりと押さえる必要がある。

それと同時に、「詳しくする」ということは、対象のさまざまな特色のうちいくつかを切り取り限定することでもある。この行為は、表現過程における着想の観点とも重なり得ると言える。したがって、子どもは、「詳しくする」観点として「何を」「どんな」「どこで」「いつ」などに着目していくことを、これまでの作文単元で学習してきた取材の方法を通して、ある程度身につけている。

そこで、本教材においては、観点を意識化させることによって、修飾語の知識の理解という言語事項が、今後の表現活動、さらには読解・鑑賞活動にも生かしていけるように系統的な学習を展開していきたい。また、本校で取り組んでいる「基礎学力の定着」を目指して、本教材の基礎基本を明らかにし、修飾語の理解が全員に定着するような指導形態や指導法の工夫を図りたい。

(3) 子どもの実態

本学年の子どもたちは、国語学習に関心をもっている子どもが多い。

書く活動において、中でも作文学習では、多くの子どもが好きである。その理由として、思ったことが書ける、楽しいという答えが多く、自分の考えを自由に書ける楽しさをこれまで経験している。しかし、嫌いな理由として、考えるのが難しい、めんどろという子どももあり、ワークシートを活用しての学習、カードやコンピュータ等の視聴覚機器を使っでの学習など、書くことへの抵抗を減らしていく工夫が必要である。

話す活動においては、半数以上の子どもが好きで、自分の考えを友達に発表できるすばらしさを味わっている。しかし、はずかしさ、笑われるのが嫌ということ嫌いな理由としてあげる子どももいるので、子どもたちの良いところを見つけ、称賛する場をもつことが大事であると考え。また、子どもたちに、はずかしいという意識をもたせないための学習の流れの工夫、友達との交流を取り入れるなどの学習形態も考えていきたい。

聞く活動においては、友達の考えや思いを聞くことが好きな子どもが多い。ただ聞くだけでなく、良いところを見つけ、友達の考えを参考にして、自分の考えを広げていく活動を取り入れたい。これらが、書く・話す活動での表現の工夫、話す活動での話すことへの自信につながると考える。

4 デジタルコンテンツの活用について

本時では、「わかる」「できる」「楽しい」を感じさせる教材・教具をと考えた。そこで、全てのコースにおいて主語・述語・修飾語の色別カードを使うことで、知識の定着、学習したことの理解を図ることが、さらに、児童の意欲の向上にもつながると考えた。また、【 星コース 】では、コンピュータを使い、写真等の視覚的な教材を使うことで、子どもたちの新たな発想を引き出し、意欲的に楽しく学習できると考えた。

5 単元の指導計画

次	時	主な学習活動
一	1	修飾語の働きを理解することができる。 文の構成する成分への関心を高める。 修飾語の働きを理解する。 修飾・被修飾の関係を理解する。
二	1	修飾語の使い方を理解することができる。 修飾語の使い方を理解する。 修飾語を意識的に取り入れて作文を書く。 修飾語を使うと、文の意味が詳しくなることを確認する。 理解度テストをする。
三	1	修飾と被修飾の関係や基本的な役割と使い方がわかり、主語・述語・修飾語のそろった文を書くことができる。 コース別にそれぞれのめあてをもって、主語・述語・修飾語の基礎的 基本的事項の定着を目指すものである。【本時】<コース選択別学習>

本教材の指導計画に従って、2時間でどれだけ理解できたか自分で知るため理解度テストを実施し、もっとわかるようになるにはどうしたらよいかの子どもに聞きながら、3つのコースを編成した。そうすることで、それぞれのクラスで「わかる授業・できる授業・楽しい授業」が組み立てられ、主体的に学習に取り組めるのではないかと考えた。また、それぞれのコースで一人学習、ペア学習と形態を変えていけば、お互いに高め合うことができると考えた。

本時の目標（基本的事項）が、「主語・述語・修飾語の基本的な役割と使い方の理解、修飾・被修飾の係り方」にあることから、3つのコースは、基本的事項を繰り返し学習し、その定着をはかることをねらいとした【 夢コース 】、基本的事項を踏まえた上で、そのさらなる定着をねらいとした【 空コース 】、基本的事項を踏まえた上で、日常生活に活かすための学習を行う【 星コース 】を設定した。

6 本時（3 / 3）

（1）本時の目標

- これまで学習したことがきちんと習熟できるように、意欲を持って取り組むことができる。
〔関心・意欲・態度〕
- 修飾・被修飾の役割や係り方を理解して、正確に表現することができる。
〔表現・言語〕
- 主語・述語・修飾語がそろった文を書くことができる。
〔言語〕
- 友達の表現の工夫を発見することができる。
〔表現・理解〕

（2）指導にあたって

- 「くわしくする言葉」という本教材名を意識付け、「詳しくする」ということから、「何を」「どんな」「どこで」「いつ」「どのように」などの観点を示す修飾語に結び付けて考えるようにする。
- 伝えるという行為の中で相手意識を持たせることにより、学習に対する関心や意欲を高めるようにしたい。
- 主語と述語を意識させ、さらに修飾語を意識して表現力が確かなものになるようにしたい。
- 生活の中で、きちんと使えるようにするために、「話す・聞く・書く・伝える」というあらゆる場面で修飾語を意識させる。
- 修飾語の必要性を感じさせるような指導の場面を工夫し、個に応じた学習を心がけたい。
- 子どもの「もっと学びたい」という気持ちと「どこにつまずいているか」という意識を大切に、3コースの中から自分で選択させ、そこで、基礎・基本を定着させたい。また、自分の挑戦したいコースを

選択することで、言語に関する関心・意欲も高められるものと予想される。

- ・ コンピュータを使い、写真等の視覚的な教材(例「星への誘い」<http://www.asahi-net.or.jp/~dy7synym/>)を使うことで、子どもたちの新たな発想を引き出し、意欲的に楽しく学習させたい。

(3) 実際

【 夢コース 】

<目標>

主語・述語・修飾語の果たす基本的な役割と使い方がわかり、簡単な修飾・被修飾の関係を理解して、主語・述語・修飾語のそろった文(3語文以上)を書くことができる。

【 空コース 】

<目標>

主語・述語・修飾語の果たす基本的な役割と使い方がわかり、簡単な修飾・被修飾の関係を理解して、主語・述語・修飾語のそろった文を書くことができる。

【 星コース 】

<目標>

主語・述語・修飾語の果たす基本的な役割と使い方がわかり、自分の伝えたいことを修飾語を使って豊かに表現することができる。

過程	主な学習活動	教師(T)の発問と児童(C)の反応
つかむ (5分)	1 これまでの学習をふりかえる。 ・漢字の読み ・主語・述語・修飾語の確認 2 本時の学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">主語・述語・修飾語を入れて、1枚の写真から、一分間スピーチを考えよう。</div>	T 「パソコン画面を見て、復習をしてみよう。」 C 「わあ、すごい。」「主語です。」「述語です。」「...パソコン画面の動きに驚き、興味を示す。 T 「パソコンに映っている絵を見て、主語、述語、修飾語を入れて文を作ってみましょう。」 C 「元気な女の子が、朝、体操を楽しそうにしている。」
見通す (2分)	3 学習の進め方を確認する。	
調べる (20分)	4 パソコン画面に映された画像を見て、1分間スピーチを考える。 5 考えたスピーチ文の修飾語をさがす。 6 スピーチ文を紹介する。	T 「1枚の写真を選び、1分間スピーチを書いてみよう。」 T 「修飾語はどれ?」「くわしくかけているね。」 C 原稿用紙の半分ぐらい書いている子どももいる。
深める まとめる (8分)	7 全体で発表する。 8 友達の表現の工夫を発表する。	
ふりかえる (10分)	9 理解度テストをする。	

(4) 評価

- ・ これまで学習したことがきちんと習熟できるように、意欲を持って取り組むことができたか。
- ・ 修飾・被修飾の役割や係り方を理解して、正確に表現することができたか。
- ・ 主語・述語・修飾語がそろった文を書くことができたか。
- ・ 友達の表現の工夫を発見することができたか。